

## 【第1号議案】平成28年度事業報告

---

### 1 事業の成果

平成28年度は、法人事務所の近傍に災害公営住宅が新たに建設され、入居が始まったこともあり、「新しいコミュニティづくり」とその「担い手づくり」を中心に活動を行い、復興に向けて主体的に活動するNPOや地域住民、商店街、復興住宅居住者等をつなぎながら、実効性のある事業を企画・運営した。

地域住民と東日本大震災により被災された方々が気軽に集える「コミュニティカフェ」の果たす役割や機能を広く伝え、実際に開設するための講座やトライアルカフェを登米市・気仙沼市・南三陸町・石巻市の4地域で実施した。コミュニティカフェが人と人の出会いの場となり、趣味やアート、食、伝統文化、子育てなど、さまざまなテーマで人が集い、語り合い、復興への拠点となり得る可能性を伝えるとともに、このような思いに共感する方々に対して応援する事業とした。今後も受講者の皆さんとともに、子どもからシニア世代まで、子育て親子から障がいを持つ方まで、心地よい距離感を保ちながらも地域に密着し、つながり合う居場所づくりを目指していきたい。

被災地域において、「PC基礎講座」や「趣味講座」、「手仕事支援講座」、「マルシェ事業」、「移動ママカフェ」等、一年を通じて開催し、コミュニティづくりのサポートを実施した。また、アルテラスおおあみを「緑のあるやすらげる憩いの場・潤いがある集いの場」として演出したいとの考えから、地元造園業者の協力のもと地域住民と地元商店街、ボランティアが汗を流し、植栽、植樹、貼芝等の緑花作業を実施した。無機質なイメージだった同施設は、緑化植栽をすすめたことで快適なコミュニティスペースへと変化させることができた。

一方、昨年続き、地域に根差した事業での起業を志す方や、個人で開業を目指している方、起業の意思がありながらも経済的理由等で実現できていない方々に対し、創業を実現させるための支援事業を実施した。「アルテラスおおあみ」内の未利用室を活用して、創業希望者が日替わりでカフェやキッチンを営業できる「チャレンジカフェ」を整備し、飲食店の基礎を実際の店舗で学ぶことができ、より自分に合った店をスムーズに開業する為の場所を開設することができた。

11月、12月は第3金曜日、1月以降は毎月最終金曜日にアルテラスおおあみ「ナイトマーケット」を開催し、チャレンジショップやチャレンジカフェ出店者の集客促進を支援した。個人消費喚起キャンペーン「プレミアムフライデー」に先駆けたこの試みは、地域の賑わいづくりや起業の促進に寄与した他、出店者同士の横のつながりを深める効果があり、一つの教育の場とすることができた。

「とめ女性支援センターhug」の運営については、昨年同様、イベントやワークショップを中心に被災地の女性の就業促進や仲間づくり、コミュニティづくりを支援する事業を数多く実施した結果、利用者の自主的な活動も増えている。子育て支援団体やボランティア、大学等に協力をいただきながら、子育ての個別の相談や地域の子育て関連情報を提供してきた。様々な人と関わりながら子育てできる拠点として益々認知されてきたように思うが、多額の欠損金を計上してしまったため、今後の運営経費の捻出について検討が必要である。

弊法人の活動も多岐にわたるようになり、まちづくりの担い手としての認知や期待も深まっているが、平成 29 年度より、登米市が設置する「とめ市民活動プラザ」の運営を担うことになった。登米市型中間支援組織として各種支援業務と併せ、コミュニティ組織や市民活動団体、企業、市民、行政等による「協働のまちづくり」の推進を図るために、主体的に活動する様々なセクターとの連携を強化していきたい。

前述した昨年度に実施した数々の事業は、弊法人の事業内容の重要性をご理解いただいた登米市や宮城県、第一生命財団、都市緑化機構様等からの助成金の他、クラウドファンディングサービスや、寄付、会費を通じて資金を提供していただいた皆様、そして何より「地域の元気を取り戻そう！」のスローガンのもと、一緒に汗を流していただいた地域住民やボランティアの皆さんの支援により実施されたものである。ご支援を頂いた皆様に心からの感謝を申し上げますとともに、平成 29 年度以降の活動も期待に応えるべく、地域課題の解決と新たな価値の創出に向け、スタッフ一丸となって取り組んでいきたい。

## 2 事業の実施に関する事項（特定非営利活動に係る事業）

事業(1)	コミュニティカフェ開設支援事業	実施日時	平成28年7月1日～ 平成29年3月31日
実施場所	登米市・気仙沼市・南三陸町・石巻市	従事者数	4人
受益対象者	・登米市69人 ・気仙沼市64人 ・南三陸町94人・石巻市68人	事業分類	コミュニティサポート事業
事業目的	コミュニティカフェ（居場所）から始まる新しいコミュニティづくりを支援するとともに、運営に当たる地域リーダーを育成する。		
事業内容	<p>登米市及び南三陸町より後援を頂き、コミュニティカフェの開設に向けた講座、ワークショップ及びトライアルカフェを登米市、気仙沼市、南三陸町、石巻市の4地域にて開催した。</p> <p>登米市内の実施場所については、それぞれ復興住宅が建設されている地域を会場とし、沿岸部から移り住んだ方々の参加を促した。</p> <p>受講した方々は、それぞれ新しいかたちのコミュニティの場づくりを模索していたようであり、多様なジャンル（傾聴ボランティア型・手仕事カフェ型・子育て支援型・健康づくり型等）や地域に根差した形のコミュニティカフェのアイデアが提案された。講座は座学とグループワークからはじまり、後半ではコミュニティカフェ開設に向けた具体的な「お金・書類・届け出等」の内容へとステップアップさせ、その後500名程度の来客のもとワンデイチャレンジカフェを実践した。</p> <p>1月には最終の講座と受講生の成果発表を兼ねたコミュニティカフェシンポジウムを開催し、被災地域における居場所としてのコミュニティカフェの可能性を学んだ。登米市長にも出席いただき、これからの地域づくりの為にコミュニティカフェの活用も視野に入れたいとのご意見も頂けた。</p> <p>受講生による成果発表会においては、コミュニティカフェ開設に向けた意欲や、コミュニティカフェによる地域の活性化策など一年間学んで得た考えやアイデアを話して頂いた。</p> <p>事業のまとめとして、講座の実施状況と成果報告、カフェを紹介したマップを掲載したコミュニティカフェ開設講座パンフレットを制作し、市役所や公民館、道の駅など68カ所に配布した。</p> <p>※「NPO等の絆力を活かした震災復興事業」補助金を活用、詳細は別紙参照</p>		
成果	<p>講座受講者が、登米市及び南三陸町に於いて4カ所のコミュニティカフェを開設させ、新たな地域住民の居場所がつけられた。</p> <p>開設されたコミュニティカフェは、地域や運営形態は異なるが、事業継続と地域課題の解決に向けたリーダーシップやコミットメントが育つよう支援の継続が必要である。</p>		

事業(2)	PC基礎講座事業	実施日時	平成28年8月1日～ 平成28年12月28日
実施場所	登米市及び南三陸町地内	従事者数	2人
受益対象者	被災求職者及び地域住民 13名	事業分類	就業支援事業
事業目的	就業やキャリアアップのためにパソコン技能の習得を希望する方に対し、「応募できる職種が広がる」、「自信を持って就活できる」ようになるためのPC基礎講座を実施する。		
事業内容	就労支援とキャリアアップを中心としたPCの基礎講座事業を登米教室8回、南三陸教室12回実施した。受講生のニーズをくみ取りながらカリキュラムを構成し、年賀状作成講座、デジタルカメラ・スマートフォン講座など生活に係る内容を含めながら、パソコンスキルを客観的に証明できるMOS資格取得へ向けたPC講座を実施した。  ※「NPO等の絆力を活かした震災復興事業」補助金を活用、詳細は別紙参照		
成果	参加者数については登米市、南三陸町内の役場や公民館、子育て支援センター、ポータルセンターなどにチラシを設置、広報した結果、目標人数を達成することができた。とめ女性支援センターを会場に開催した登米教室は、キッズルームが併設されていることから子ども連れでの参加が可能だったため、子育て世代の女性に好評を得た。  受講生の中からMOS(マイクロソフトオフィススペシャリスト)試験に2名の合格者を出すことができた他、PCスキルの向上により、勤め先で新しい部署に配属された方がいた等の成果があった。		

事業(3)	趣味講座及び各種交流事業	実施日時	平成28年7月1日～ 平成29年3月31日
実施場所	登米市・南三陸町地内	従事者数	4人
受益対象者	震災被災者、地元住民 340名	事業分類	コミュニティサポート事業
事業目的	震災により移住された方々と地元住民による交流イベントや講座等の各種事業を通じ、新しい地域コミュニティの形成を図る。		
事業内容	編み物講座やサンキャッチャー、オリジナルキャンドル、布絵本づくり等みんなで楽しむ趣味の講座を1年を通して実施した。  沖縄から駆け付けていただいた「にじいろキラリ」様協力の下に開催したサンキャッチャーづくりは、20名を超す方々に参加いただき大変好評を得る事が出来た。また、静岡の(株)ダイマツ様より提案いただき実施することになった布絵本作りは、季節の行事をモチーフに製作することから年間を通じた講座と		

	<p>なり、平成 29 年度以降も実施することになった。完成した布絵本は各地保育園などに寄付されている。</p> <p>その他、震災直後より継続実施している 4 か所の仮設住宅での編み物講座や新作商品づくりも一年を通じて実施した。企業のノベルティ用で利用したいとの受注もあり、震災の風化防止に貢献する事業となっている。</p> <p>※「NPO 等の絆力を活かした震災復興事業」補助金を活用、詳細は別紙参照</p>
<b>成 果</b>	<p>様々な趣味講座の実施は、心の安らぎと孤立防止につながる事業となり、震災被災者と地域住民の交流を促進することができ、新しい地域コミュニティの形成を図る一歩になった。</p>

<b>事業 (4)</b>	手仕事ギャラリー事業	<b>実施日時</b>	平成 28 年 9 月 24 日～ 平成 29 年 3 月 31 日
<b>実施場所</b>	アルテラスおおあみ他	<b>従事者数</b>	3 人
<b>受益対象者</b>	レンタルボックス利用者 24 名	<b>事業分類</b>	震災復興支援事業
<b>事業目的</b>	手仕事による身の回り品の販売支援を通じて、東北の暮らしの知恵を発信するとともに被災地での女性の仕事づくりを支援する。		
<b>事業内容</b>	<p>アルテラスおおあみ内の空きスペースに、小型の販売展示 BOX を設置し、県内各地で手作りされている復興支援グッズを集め、展示・販売することが出来るスペースを新設した。</p> <p>11 月と 12 月には東京都目黒区自由が丘にて登米市産品のテスト販売時に移動手仕事ギャラリーとして出店し、復興支援グッズとして多くの都民の方々に紹介した。</p>		
<b>成 果</b>	<p>NPO 法人応援のしっぽ、みやぎ生協、南三陸町 Yes 工房様の協力のもと、24 団体が手掛ける手仕事グッズを展示することができた。広報が遅れ、一般の来場者数は少ないものの、出店者同士の交流や情報交換などが盛んに行われている。</p> <p>自由が丘で実施した移動手仕事ギャラリーにおいては、被災地支援グッズの販売を通じ、たくさんの方に被災地の現状や、継続的な支援の必要性などを啓蒙することが出来た。</p>		

事業 (5)	おおあみ MIN・MIN マルシェ	実施日時	平成 28 年 9 月 25 日 10 : 00 ~ 16 : 00
実施場所	アルテラスおおあみ、コンテナおおあみ	従事者数	5 人
受益対象者	地域住民他 来場者数約 1,600 名	事業分類	コミュニティポート事業
事業目的	アルテラスおおあみ内の出店者に加え、地域の方々が気軽に出店できるマルシェを実施することで、同施設の知名度向上を図り、地域における新たな賑わいを創出する。また、出店者や来場者の交流を促進する。		
事業内容	大網地域に建設された 46 世帯の災害公営住宅への入居も完了し、地域住民と移住してきた方々の更なる交流促進を図る為に、今年で 3 回目となる「おおあみ MIN・MIN マルシェ」を開催した。36 店舗の出店があり、多くの来場者で賑わった。石巻市や南三陸町など沿岸部からの出店・来場もあり、被災地域の復興の一助となるイベントに成長した事を感じ取れた。  出店内容 ハンドメイド雑貨、ハンドメイドアクセサリー、手作りスイーツ パン各種飲食、キッチンカー等		
成果	地元住民をはじめ、たくさんの方の来場があり、アルテラスおおあみに出店しているチャレンジショップやチャレンジカフェ、ギャラリー BOX に展示してある作品の PR につながった。大網地域の賑わいの創出にも貢献することができた。		

事業 (6)	とめ女性支援センター運営事業	実施日時	平成 28 年 4 月 1 日 ~ 平成 29 年 3 月 31 日
実施場所	とめ女性支援センター他	従事者数	4 人
受益対象者	一般市民、不特定多数	事業分類	女性支援事業
事業目的	各種イベント、セミナー、プログラム等を実施し、登米市—南三陸町を中心とする女性支援に携わる団体・個人のネットワークを形成し、利用者の増加を図る。また、常設の地域子育て支援拠点とするべく、子育て親子の交流を促進し、育児、保育に関する相談指導等について対応できるスタッフを養成する。		
事業内容	<b>1. 夏休みキッズイベント「夏ものづくり」</b> 目的：小学生以下の子どもとその保護者を対象にした体験型イベントを実施し、ものづくりプログラムをとおして子ども達の感性や創造性をはぐくむとともに、子育て親子の交流を促進する。  ①夏休み特別企画キッズイベント 夏ものづくり「トントン大工さん」 夏休みの自由工作向けキッズイベント。地元工務店「加藤工務店」様のご協力のもと、オリジナルブックスタンドの製作を行なった。		

実施日時：平成 28 年 7 月 28 日 10：00～12：30

参加人数：年長児から小学 3 年生までの子ども 15 名 保護者 10 名

事業協力：加藤工務店のスタッフ 3 名（内ベトナム人研修生 2 名）



②夏休み特別企画キッズイベント 夏ものづくり「プレートアート」

夏休みの自由工作向けキッズイベント。オリジナルの「皿」づくりを行なった。

実施日時：平成 28 年 8 月 4 日 10：00～12：30

参加人数：年少児から小学 4 年生までの子ども 10 名 保護者 10 名

講師：斎藤 泉氏



成果：木工イベントにおいては、最近では触れることが少なくなった釘や金づち、のこぎり等の道具の利用やペンキ塗りをとおし、ものづくりの素晴らしさを体験していただけた。参加した子ども達からは「想像以上に素敵なブックスタンドができた」と好評だった。参加者間の交流はもちろん、地元企業の方との交流ができた他、研修に来ているベトナムの方との国際交流もできた。

プレートアートでは、学校や家でのあまり使わないアクリル絵の具を使ったオリジナルプレートづくりだったため、子どもたちの創造力や表現力を大いに刺激することができた。予算や参加人数把握の遅れなどもあり、刷毛やインクなど材料が不足するといった課題があった。

## 2. hug サポーター養成講座

目的：とめ女性支援センターhugにおいて、子どもの一時預かりや各種事業の協力ができるスタッフを育成するための講座を開催する。

実施日時：平成28年4月24日 10:00～15:00

平成28年7月16日 15:30～17:00

内容：ボランティア活動の基本／子ども支援と親支援／託児の際の留意点、ワークショップ開催講座/女性の力を活用したまちづくり

講師：足立千佳子氏、及川幾雄氏

参加人数：19名



成果：講座をとおり、これまでの活動内容や課題等の振り返りをすることができた。また、両日とも交流会の時間を設けた結果、参加者から今後の活動に対する要望や提案が数多く挙げられた。

子どもの一時預かりについては、イベント開催時に集中していたが、サポーター自ら「Café つむぎ」や「キッズスペースぱたぱた」を利用する子育て世代と日頃から交流を深めることで、サービス利用者の増加につなげたいとする意見もあがった。

## 3. hug マルシェ、小箱 BOX 作家交流会

目的：「Café つむぎ」内に出店している小箱作家に加え、子育て世代の女性のお店が気軽に出店できるマルシェを実施することで、とめ女性支援センターhugの知名度向上を図り、地域における新たな賑わいを創出する。また、出店者や来場者の交流を促進する。



① ちっちゃな hug マルシェ

ハンドメイド作品や地元農産品販売の他、地域住民によるギター演奏会、各種キッズワークショップなどを同時開催し、住民参加型マルシェをジュニアリーダーや大学生ボランティアの協力のもとに実施した。

実施日時：平成 28 年 6 月 4 日 10：00～15：00

参加人数：ハンドメイド作家 20 名 hug サポーター 3 名  
一般来場者約 250 名

事業協力：市内ジュニアリーダー 8 名、大学生ボランティア 3 名  
ぴいすカンパニー 3 名



②小箱 BOX 作家交流会

ちっちゃな hug マルシェの反省会と次回のマルシェに向けてのミーティングを実施した。小箱 BOX 作家さん同士のコミュニケーションを図るとともに、プチ起業のためのプチセミナーを実施した。



実施日時：平成 28 年 7 月 9 日  
10：00～12：30

参加人数：ハンドメイド作家 10 名

成果：地元住民をはじめ、たくさんの方の来場があり、Café つむぎに出店している小箱 BOX 作家さんの作品やとめ女性支援センター hug の PR につなげることができた。

若い子育て世代だけではなく、ご高齢の方々の来場も多く、多世代間の交流ができた。

#### 4. オリジナルキャンドルメイキング

目的：自分だけのオリジナルキャンドルを作り、その火を囲みながら、日常の子育てに追われている時には気づけなかった思いや考え等を発見、共感する機会とする。また、参加者間の交流を促進する事業とする。

内容：著名なキャンドル作家阿部笙子氏を招き、オリジナルキャンドルづくりワークショップを3回開催した。菓子とお茶付きのティータイムも用意し、ゆっくりとした時間を過ごしながプロのキャンドルづくりを体験した。

実施日時：平成28年8月7日、9月4日、10月2日

いずれも10:30~12:30

参加人数：地域住民 各8名

事業協力：(講師)キャンドル作家 阿部笙子氏



成果：参加者にはキャンドル作りの楽しさや火を灯すことで得られるリラックス感などを伝えることができた。習得をした技術や知識は、家庭やコミュニティづくりに活かしていただければと思う。

#### 5. 調香師が教えるアロマ講座

目的：医療現場でも導入されはじめたアロマセラピーを日々の生活の中で活用することで病気予防と健康づくりにつながることを伝える。また、参加者の皆さんのリフレッシュ効果や交流を促進する事業とする。

内容：調香師を招き、香りやアロマの効果についてわかりやすくひも解きながら、日々の生活習慣を原因とする不調をいくつかピックアップして、自宅でできるメディカルアロマを学んだ。好きなブレンドの中からコロンを作るワークショップを通して「好きな香りの本当の意味」や日本人には切っても切れないアロマの成分などを学び、様々な角度からホームケアアロマの知識を得た。

実施日時：平成 29 年 2 月 4 日 10：30～12：30

参加人数：地域住民 9 名

事業協力：調香師・鈴木貴博氏



成果：当日はもちろん、後日参加された方々からよく眠れた、疲れが回復した等の声が多くあがった。参加者の 9 名それぞれが、様々な悩みや体調不良を訴える中で、「アロマ」を使っのりフレッシュや、自分の健康と向き合う良いきっかけとなった。

## 6. 移動ママカフェの実施

目的：とめ女性支援センターhug で学び日々実践している事や子育て関連の情報を、各所に出向き交流を深めながら伝えることを目的とする。また参加者同士「楽しみながら子育てする」ことをシェアし合う事により、実践をしやすくし、各種の悩み解消にも役立てていく。

①実施日時：平成 28 年 7 月 23 日、10 月 23 日 10：00～15：00

従事者数：8 名（内ボランティア 3 名） 参加人数：約 200 名

事業内容：中江中央公園において「手作り米粉クッキー」子供向け「ソーダドリンク」「登米産スープカレー」等の販売をしながら、とめ女性支援センターhug の PR や相談対応を実施した。



②実施日時：平成 28 年 9 月 24 日 10：00～17：00

従事者数：9 名（内ボランティア 7 名） 参加人数：約 200 名

事業内容：南三陸ベイサイドアリーナにおいて子供向け飲料「キラキラサイダー」の販売をしながら、とめ女性支援センターhug の PR や相談対応を実施した。



③実施日時：平成 28 年 10 月 2 日、11 月 6 日、平成 29 年 2 月 5 日、3 月 5 日  
いずれも 10:00～16：00

従事者数：5 名（内ボランティア 2 名） 参加人数：各約 90 名

事業内容：「石ノ森いろいろ市場」において「登米産スープカレー」や「つむぎブレンド」の販売をしながら、とめ女性支援センターhug の PR や相談対応を実施した。



成果：たくさんの子育て世代の方に、子育てやイベント等の情報提供を行うことができ、とめ女性支援センターhug の PR に大いに貢献できた。また、学生やママサークルのボランティアの方も、子ども達や親子連れの来場者と交流を深める事業とすることができた。

## 7. みんなの子育てフェス

目的：親子の絆を育むこと、健康づくり、心のリフレッシュを目的に親子参加型の子育てフェスティバルを開催する。

内容：NPO 法人ウィメンズアイが主催する「みんなの子育てフェス」に事業協力の形で参加した。「野菜キーマカレー」「キラキラサイダー」などを販売する他、フラフープ大会の企画、開催を行った。

実施日時：平成 28 年 7 月 3 日、10：00～14：00

従事者数：5 名（内ボランティア 3 名） 参加人数：約 80 名



成果：南三陸町の中でも交流の少なかった歌津地区の方々との交流ができ、同じ町でも、地域ごとで子育ての悩みは違うことを実感した。今後のイベント協力の依頼もあったが、積極的に交流を深めていきたい。

## 8. セラピー大作戦

目的：普段から色彩のエネルギーの力を借りて生活していること、色には意味があるということを理解し、色彩を楽しむことで普段の生活を豊かにする。また、カード塗り絵を通して自分の心理状態を分析する等、セルフセラピーの手法の1つを学ぶ。

内容：見えない力で癒されちゃおう！をテーマにカラーセラピーや yoga、カード塗り絵を通して、色彩を楽しむことを学び、普段のストレスや疲れを開放してもらう企画を実施した。

実施日時：平成 28 年 11 月 26 日

10：00～15：00

参加人数：32 名



成果：予想を大幅に上回る来場者数で、たくさんの方々と情報交換ができた。看護師や保育士の参加も多かったが、色が持つ意味を学ぶことで、子どもが描

く絵を見て子どもの状態を分析するヒントや参考にもなるとの感想もいただいた。気分を明るくしたい時、また物事に集中したい時など、必要な色の効果をファッションやインテリアにどう取り入れると良いか知ることができた。

### 9. ハロウィンキッズパーティ

目的：親子の絆を育むこと、健康づくり、心のリフレッシュを目的に親子参加型の子育てフェスティバルを開催する。

内容：子ども達が思い思いのモンスターに仮装し地域を歩くハロウィンパーティーを開催した。スタッフとボランティア、参加した子ども達と一緒に仮装メイクの手伝い、食事の準備、会場の装飾など行ない、衣装に着替えて、近所の方々に見せに街を散歩した。終着点のアルテラスおおあみにて入居店舗を回ってお菓子を頂戴して、Café つむぎまで散歩して戻った。ジュニアリーダーとシニアリーダーの方々にも協力をいただいた。

実施日時：平成 28 年 10 月 29 日、10：00～14：00

参加人数：25 名（内ボランティア 8 名）



成果：子ども達によるかわいらしい仮装パレードは、地域住民からも保護者にもとても好評だった。

ジュニアリーダーの子ども達もこれからの活動に自信が持てたと話していたが、子育てや地域のにぎわいづくりの企画・運営に、大人と一緒に取り組んだことは、子ども達の社会性を育むことにつながった。

### 10. ふゆ\*ものづくり

目的：子どもたちが日常あまり触れることのない「伝統工芸」に興味を持つきっかけとし、子どもの豊かな人間性を育む。

内容：秋保工芸の里から、伝統職人をお呼びして、子どもたちに昔ながらのあそび「コマ」の魅力に触れてもらう。コマの色づけを通して、伝統工芸の素晴

らしさを体験する事業とした。

実施日時：平成 29 年 1 月 7 日、10：00～12：00

参加人数：10 名（内高校生ボランティア 2 名）

講師：前田良二氏



成果：コマを削るところから見せていただき、参加した子ども達は釘づけになっていた。屋外での活動だったため、近所の高齢の方々が集まってきて、コマの回し方や遊び方を子ども達に教えることとなり、伝統工芸の素晴らしさに触れただけではなく、地域の方々との交流を深める機会とすることができた。

#### 11. ベビーマッサージ&ランチ会

目的：肌と肌で触れ合う親子のスキンシップ「ベビーマッサージ」の方法や効果を学ぶとともに日頃、子育てに奮闘している母親たちの交流の場を提供する。

内容：ベビーマッサージセラピストを招き、親子のスキンシップと赤ちゃんの発育を促すために行うベビーマッサージレッスンを実施した。赤ちゃんへの効果やマッサージ方法を学んだ後、出産して間もない子育て世代の悩み相談会や、情報交換、交流会の時間を設けた。ランチには、授乳中の体を考えて、登米市産米粉麺を使用した食事を提供した。

実施日時：平成 29 年 1 月 28 日

10：30～14：00

参加人数：7 名

講師：講師 高橋歩美氏

成果：キャンセル待ちがでる程、大盛況だった。新生児から1歳までの子育てに奮闘中のお母さん達の息抜きの場となり、新しいつながりの交流の場とすることができた。  
登米市産米粉麺のランチも大変好評だった。



## 12. 子ども・子育て支援制度研修会への参加

目的：平成27年4月に施行された「子ども・子育て支援新制度」や平成28年4月からスタートした「企業主導型保育事業」を学び、今後の取組みの参考とする。

内容：子ども・子育て支援新制度フォーラムに参加し、各地域の子ども・子育て支援事業や各自治体・企業の企業主導型保育事業についての取り組み事例を学んだ。保育施設の設置のきっかけや設置までのプロセス、保育施設の特徴、利用者の声等を聞いた。

実施日時：平成29年2月22日、13:30～17:00

参加人数：3名

成果：登米市においてもニーズがあり、課題でもある病児・病後児保育に関する練馬区の取り組み事例は大変参考になった。

とくに人材確保において苦労したことや、多様な機関との連携等の工夫についての話しは、今後の活動に大いに活かしていけるものだった

## 13. 子どもの一時預かり事業

内容：子育てママが各種イベントや講座の参加、PC研修などで一時的に子どもの世話ができない場合や、育児リフレッシュしたい時などに子どもの一時預かりを実施した。各団体からの出張要請にも対応し、一年をとおしての事業とした。

成果：回数を重ねる毎に、スタッフも慣れ、子どもを預かる際の留意点や緊急時の対応などが身についてきた。利用者とのコミュニケーションも深まり、少しずつではあるものの、身近な子育ての応援者として認知されてきた。

※「登米市地域協働まちづくり事業補助金」を活用



事業(7)	創業チャレンジャー支援事業	実施日時	平成 28 年 11 月 1 日～ 平成 29 年 3 月 31 日
実施場所	法人事務所及びアルテラスおおあみ	従事者数	2 人
受益対象者	開業直後の創業者及び起業希望者	事業分類	起業支援事業
事業目的	地域に根差した事業での起業を志す方や、個人で開業を目指している方、また起業の意思がありながらも経済的理由等で実現できていない方々に対し、創業を実現させるための支援体制をソフト・ハード面から地元商店街組織と連携しながら構築し、地域における起業の促進と雇用創出を図る。		
事業内容	<p>登米市大網地域において整備されたチャレンジショップを活用して、創業希望者に対する下記支援事業を実施した。</p> <p>1. 起業セミナー・交流会の開催</p> <p>登米市及び近隣の市町村において起業を考えている方や創業後 2 年未満の方、また、第二創業的に新たな事業展開を考えている方を対象に、事業を行う上で必要となるスキルを高めるためのセミナーと模擬店の開催、情報交換やネットワークづくりのための交流会を実施した。</p> <p>2. 開業・事業相談</p> <p>地域に根差した事業において起業を志す方や「チャレンジカフェ」を利用してプチ起業を目指す方、また「チャレンジショップ」に入居した開業直後の個人または団体を対象に、個別の相談業務を実施した。</p> <p>相談内容に応じて、専門家や行政機関、金融機関を紹介した。</p> <p>3. 創業希望者及び開業直後のチャレンジショップ入居者支援</p> <p>店舗運営のアドバイスを行い、各店舗を紹介するチラシの制作・配布による告知・販売促進活動を実施した。また、入居者のビジネスの進行状況に合わせて、ショップコンセプトのブラッシュアップ、各関連業者の紹介などのサポートを行った。</p> <p>4. 創業支援施設の整備</p> <p>アルテラスおおあみ内の未利用室を活用して、創業希望者が日替わりでカフェやキッチンを営業できるチャレンジカフェを整備した。カフェビジネスの基礎を実際の店舗で学ぶことができ、より自分に合った店をスムーズに開業する為の、コンセプト計画、資金計画、メニュー構成など、トータルで身に付ける場所とした。</p> <p>また、地域の食材を利用した料理教室やメニューづくり、「言論カフェ」や「子どもカフェ」、「アート・ミュージックカフェ」といった様々なカフェ企画や誘客イベントが実施できる場とした。</p>		
成果	本事業は、「チャレンジショップ」入居者と「チャレンジカフェ」利用希望者を主な対象として実施した。前者においては経営経験が無い方ばかりだった		

	<p>め、早くも店舗運営の継続が危ぶまれる出店者もいた。初心者にとって、孤独感や不安感は想像以上に大きなものがあり、弊法人としても開業後の支援体制については、手薄であると感じていたが、今回、経営指導者による具体的アドバイスを出店者が受けたことで、再度モチベーションを向上させることができた。結果、売上向上につながる好例が出たことから、弊法人としても、共に学び、コミュニケーションを強化する重要性と入居者に対する教育・指導体制の再構築の必要性を実感することができた。</p> <p>チャレンジショップ出店者を中心に11月、12月の第3金曜日、集客促進を目的に「ナイトマーケット」を実施した。思いのほか出店者から好評だったことから、1月からは個人消費喚起キャンペーン「プレミアムフライデー」に先駆け、最終金曜日に定期開催することとした。この試みは、地域住民や来街者の回遊の増加があっただけではなく、出店者同士の横のつながりを深める効果があり、一つの教育の場とすることができた。</p> <p>本事業により整備した「チャレンジカフェ」は、1月の運営開始から週末を中心に利用が増える等、新規業態の導入を促した結果、大網地域のにぎわいの創出に寄与することができた。とくに、飲食店の開業を目指してUターンした2人の創業希望者は、チャレンジカフェの利用を通じ、自分の店を持つ自信を感じるまでに至り、平成29年度月上旬に登米市内で開業する運びとなっている。</p> <p>「タウンネットカフェ」と名付けたこの施設が広く認知されることは、多彩なビジネスと雇用創出のきっかけになり、施設全体の来客増加を促す手ごたえを感じている。チャレンジショップ出店者への支援にもつながることから、アルテラスおおあみを利用する様々なチャレンジャー同士による情報共有や相互の成長を図る重層的な創業支援体制を構築する一歩とすることができた。</p> <p>※宮城県まちなか創業チャレンジャー支援事業費補助金を活用、詳細は別紙参照</p>
--	--

事業(8)	シティプロモーション事業	実施日時	平成28年10月9・10日 平成28年12月9-11日
実施場所	東京都目黒区自由が丘地内	従事者数	4人
受益対象者	登米市民	事業分類	観光戦略事業
事業目的	登米市の魅力を首都圏において発信し、ヒト・モノ・カネを呼び込み地域経済を活性化させるとともに登米地域の一体感を醸成させる一助とする。		
事業内容	東京都目黒区の自由が丘において開催された商店街イベントにてブース出展し、登米産の物産販売を実施した。また、自由が丘商店街振興組合の役員の方々と登米産特産物の消費拡大を図るための打ち合わせを実施した。		

<b>成 果</b>	<p>自由が丘で開催されている「自由が丘女神まつり」等への出店は5年目になり、登米産の「牛串」や登米産米と自由が丘のコラボレーションから生まれた「ホイップるん米」はかなり認知されてきたように思う。しかしながら、弊法人の財源や地域経営の観点から、行政やより多くの市民を巻き込むにはどうしたらいいのか、イベント時だけではなく継続的な取引拡大について等の検討が必要である。</p>
------------	---

<b>事業(9)</b>	おおあみグリーンプロジェクト	<b>実施日時</b>	平成28年11月1日～ 平成29年3月31日
<b>実施場所</b>	アルテラスおおあみ	<b>従事者数</b>	3人
<b>受益対象者</b>	地域住民	<b>事業分類</b>	生活環境改善事業
<b>事業目的</b>	<p>アルテラスおおあみを「やすらげる憩いの場・潤いがあり快適な場」としての演出を図るため、被災者と地域住民、地元商店街、ボランティアが協働で汗を流し、植栽、植樹、貼芝等の緑花作業を通して仲間と出会い、生きがいを見つけ、居場所を得るといふ、地域全員参加型の事業とする。</p>		
<b>事業内容</b>	<p>都市緑化機構及び第一生命財団が主催し、緑化プランを公募する「緑の環境プラン大賞」にアルテラスおおあみ内での緑化プランを応募したところ、コミュニティ大賞を受賞するに至り、プランに基づいて貼芝や植樹を行った。</p> <p>植樹に際しては、地元造園業者の協力のもとアルテラスおおあみの入居者はもとより、地域住民や地元商店街の方々に参加を呼びかけ実施した。</p> <p>同施設においては、屋外スペースでのダンスやマルシェ等のイベントを開催しており、貼芝や生け垣の植樹は県道を走るクルマとの遮へい効果やレクリエーション効果にも寄与する事業とした。</p>		
<b>成 果</b>	<p>アルテラスおおあみには、「とめ市民活動プラザ」や「多目的ホール」等が設置されており、様々な市民が利用しているが、敷地内の歩道に植物を導入したことで、緑化の審美的効果やリラックス効果により利用者に対するやすらぎ感や安心感の向上に寄与している。</p> <p>また、緑の多いコミュニティづくりを目指して道路沿いの各商業店主や住民、復興住宅を含めた地元自治会に植樹活動と呼びかけた結果30人が参加し、自然に植物を目にできる緑のネットワークを形成するきっかけとなった。</p> <p>※第27回緑の環境プラン大賞 緑化助成金を活用</p>		

事業(10)	ばけつ畑部プロジェクト	実施日時	平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 3 月 31 日
実施場所	登米市米山町かのファーム	従事者数	3 人
受益対象者	登米市民及び仙台市民、南三陸町民	事業分類	コミュニティポート事業
事業目的	農業体験を通し、登米市民と他地域の人々が交流を楽しみながら、一年を通じて実践できる都市と農村の交流のモデル事例を構築する。		
事業内容	登米市米山町のかのファームの畑をお借りし土づくりから種まき、肥料や水播きなど様々な野菜の育て方や1つ1つの作業の意味を学びながら、収穫、調理まで、7～8人程度の参加者のもとに、毎月第4土曜日の定例部活として実施した。		
成果	登米市内外の参加者と米山の農家との交流を深めることができた。また参加者が登米の第一次産業の魅力をSNSで広く発信していただいたのも成果である。		

事業(11)	CSO等への支援事業	実施日時	平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 3 月 31 日
実施場所	登米市内、法人事務所	従事者数	4 人
受益対象者	下記各団体	事業分類	中間支援事業
事業目的	各団体だけでは難しい課題の解決や事業の実施を補完するために、仲介や代行、ネットワークづくりなどの間接的な活動を行う。		
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. NPO法人ハピふる Wedding に対するマネジメント力向上支援（通年）</li> <li>2. NPO法人人間の安全保障プログラムの活動サポート</li> <li>3. オペレーションブレッシングジャパン講座開催支援</li> <li>4. 麗澤大学現地視察学習受け入れ（2月24日）</li> <li>5. 再生可能エネルギー面的利用等推進検討委員会参加協力</li> <li>6. 中間支援組織として、登米市内のコミュニティ活動や市民活動、協働に関する情報をはじめ、CSOのデータや助成金情報・イベント情報・ボランティア情報などの情報収集発信</li> <li>7. 「とめ市民活動プラザ」の運営受託に向けた提案書の作成、プロポーザルへの参加</li> <li>8. その他</li> </ol>		
成果	イベント開催のためのコーディネーターや団体運営のサポート、資金及び人材集め、広報などにおいて各団体の役に立つことができた。 また、協働によるまちづくりを推進するため設置している「とめ市民活動プラザ」の運営受託に向けた取り組みを強化した結果、平成29年度より弊法人が委託団体として採択された。		